



柏葉



第36号

令和 4年1月14日(金)

福島県白河市立東北中学校

発行責任者 校長 渡邊 泰昌

「自分の未来を切り拓け！」

「第二反抗期」

おとなへの入り口

中学2年生くらいから始まる第二反抗期は、子どもにとってもつらい時期ですし、親にとってもつらい時期です。第一反抗期（3歳から2，3年間）の時とは違って、身体は大きくなっているし、力も強く、弁は立つし、理屈をこね回すので幼児を扱うほど簡単ではありません。これから、私達親が「第二反抗期を上手に乗り越えさせるために」について考えていきたいと思えます。参考になれば幸いです。

第二反抗期は自我の独立の時期です。親から精神的離乳をほぼ完成させなければなりません。「おとなへの入り口」なのです。そのためには自分自身の価値観を作り上げなければなりません。今までは親の価値観を抵抗なく受け入れ自分のものにしてきたのですが、この時期になると、それは借り物であって、自分自身のものでないことに気づき始めます。そこで借り物の価値観をこわす必要があります。親からの借り物ですから、親がまず反抗の対象に選ばれます。反抗の形は様々で、親の言うことを無視する、親に議論をふきかけてくる、とてもきけない要求をぶつけてくる、親と口をきかなくなる、時には親に暴力をふるう……。

さて、親はどうすればよいでしょうか？

(参考：横浜国大 依田 明先生)

ピーターパン症候群→やがて大人になろうという年齢の男性が大人になりたくないという強い願いを抱くこと。シンデレラコンプレックス→自立する努力をしないでひたすらすてきな王子様の登場を夢見ている女性の心境のこと。両者あわせてメルヘン症候群と呼ばれ、大人になりたがらない自立することを拒否している、心が成熟そこなった若者という意味。(20, 30年前からこの言葉はありました。)

こうした若者に共通していることは、子どもの頃たいへん素直で親に大変従順で「よい子」だったということです。(「悪い子」の時期がない。)そして、それぞれの反抗期(独立期)に、考え方や価値観の自立のための訓練や反抗があまりなかったことです。

ピーターパンやシンデレラにならないためには、だれもこの「悪い子」の時期を通り、反抗(独立)を経験することが必要なのです。

それだけでなく、登校拒否や無気力や家庭内暴力のような問題を起こさないためにも、反抗期を上手に乗り切らせることは大切なことです。

反抗が起きない場合、2つのタイプがあります。どちらの場合でも、子どもの反抗をなくせてもピーターパンに育ててしまう危険があります。

(反抗期に反抗がおきない2つのパターン)

- 1、子どもの「独立したいという欲求」を抑えない場合
- 2、親が圧倒的な力によって子どもを支配し、管理する場合

どちらの場合でも、反抗をなくすることには成功しても、将来ピーターパンやシンデレラ、登校拒否や無気力な若者に育て上げてしまいます。直すのも大変難しい場合が多いのです。

・反抗期に、時には要求が抑えられるということはがまんする力を育ててくれるものです。そういう経験をしないと、後で要求が通らない状態に出会うと、そのストレスに耐えられず、いろいろな問題を引き起こします。

・反対に反抗を徹底的に抑えられ、従順を強いられてきた子どもも、青年期に入って、もう一人の自分の存在に気づき始めた時、本当の自分が何であるかがわからず、それが不安を強め、時には若者から一切の意欲や興味・関心を奪ってしまうこととなります。これが無気力です。また、この不安はイライラを強め際限のない破壊に向かわせ、その目標は、これまで自分の要求を抑え、従わせようとしてきた親に向けられるのです。(家庭内暴力です。)

・大切なことは反抗期をうまく越えられるような子育てを心がけることですが、次号は具体的にどう考え、対処すべきかを考えていきます。

(参考：筑波大教授 高野 清純氏)

